

大阪狭山市 「第6回 まちづくり市民会議」 わたしたちが地域でできる取り組み ～プロアクションカフェの手法で～

1. 実施概要

日 時：平成30年12月16日（日）

10:00～12:00

場 所：大阪狭山市役所

第1会議室

参加者：31名



2. プログラムの概要

第6回会議では、プロアクションカフェ（※）の手法を用いて、次の5つの提案について、参加者同士で会話を重ねることで意見を深めていきました。

提案1：子育て世代大好き都市への変革
～世代間交流を通してのまちづくり～

提案2：狭山駅前を若い力で活性化！
～学生と市民が協働してにぎわいの駅前に～

提案3：陶器山を経由する新たな回遊ルートの設定

提案4：歩いて楽しいみんなの花道づくり

提案5：子どもから大人までがほっこりできる空間づくり
～移動型プレーパーク～

※プロアクションカフェとは・・・

- 様々な人の知恵を集めて具体的な行動を生み出していこうとするもので、ワールドカフェの対話の手法がアレンジされたものです。
- ワールドカフェでは、1テーブルあたり4人が座り、「20分間会話し、それぞれ別のテーブルに移動する」というラウンドを3ラウンドに行って、最後にフロア全体での意見共有を図ります。
- プロアクションカフェでは、各テーブルに提案者（コーラー）1名と貢献者（コントリビューター）3～4名が座り、提案者が移動しない点が異なります。

提案 1	子育て世代大好き都市への変革 ～ 世代間交流を通してのまちづくり ～
------	--

計画 目標	少なくとも 1 軒の空き家が、 地域の子育て環境として有効活用されている。 ・ 空き家のうちの 1 軒（若しくは数軒）を子育て世代への情報提供（交換）や集まりの場所（子育ての悩みをお互いの情報交換で少しでも解決していき、連帯感の中から明るい子育てができるように促す）として有効利用し、市民の手で運営できるように活用する。 ・ それにより子育て環境の醸成と非子育て世代への関心度向上と協力を求める。 ・ 結果的に行政施策と相まって子育てにとって抜群の都市として転入誘致になればよい。
----------	---

概況	<現況> ・ 開発地域と旧村のギャップが多い ・ 商業施設が少ない ・ 国の史跡として貴重な狭山池へのアクセスが悪い ・ 空き家が多い ・ 狹隘道路が多く危険 ・ 世代間交流が希薄 ・ 駅が無人 ・ 子育て環境が整備不十分 <資源> ・ 空き家等の有効利用 ・ 歴史ある施設や史跡 ・ さやま池の有効活用 ・ 小規模飲食店を活かす ・ 商業者のボランティア参入 ○ 空き家は人口増と逆行となるため早期の解決（有効利用）が望ましい。
----	--

時点	節目目標 (マイルストーン)	取り組み		備考
6 か月後	訪問調査を行う空き家の選定と、アンケート調査票作成のためのヒアリングを終えている。	私と PT 委員	・ 空き家調査・子育て世代へのアンケート調査のプロジェクトチームを立ち上げる（3 か月目途）	・ 既に実施している同様の団体があるので、コラボレーションも視野に入れる。 ・ チラシづくりについての有効なアドバイスと作成のレクチャーを受ける（印刷業者・ウェブデザイナー・関係事業経験者）
		市民・行政	・ 行政（関連団体）に資料として蓄積されているものの開示を依頼。 ・ 権利関係や今までの取り組みをレクチャーしてもらう。 ・ 「官」ではできないハードルを市民が受け持つ協力体制の構築を促進する。	
1 年後	空き家問題の個別事情のまとめとアンケート結果の集計ができています。	私と PT 委員	・ アンケート対象者を選定する（行政や他団体にもヒアリング） ・ 空き家の訪問調査、アンケート調査を実施する（6 か月目途）	

時点	節目目標 (マイルストーン)	取り組み		備考
1 年～ 1.5 年後	利用候補として選定した家屋について、権利関係や財務的内容が検証できている。	PT	- 利用候補とする家屋を選定する。 - 商業者（NPO 含む）などから家屋運用の担い手を決める（できれば PT を中心に市民の手で運営できることが望ましい）	- 選定はあくまでも PT 主導で、相手がある事なので、トラブルが起きないように、また永年に渡って維持できるように要素を洗い出して詰めていく。 - 実際に利用できる家屋と方針を決めていく際に、その後の具体的運用についての専従者の選定が必要となる。
		行政	契約業務にあたってのリーガルチェックと財務的補助を行う。	
1.5 年～ 2 年後	対象家屋整備に対する予算・運営者・運営方針・利用対象者などが決定している。	PT	- 対象家屋の安全性確保（建基・防犯・防災）の為に調査と改装項目の洗い出しを行う。 - 運営に携わるスタッフ（団体）との協議を通じて運営計画を策定する。 - PR 活動に対する素案を策定する。	市内の専門業者とタイアップし、技術的なアドバイスをもらい、事業予算を計画する。
		行政	- 出そろった案（インフラ面・財務面）に対し、行政がどこまで補助できるのかを協議する。 - 同時に予算全体についての最終案の採択と予算付けを行う（補助以外にも協賛団体を募る・クラウドファンディングなど）	

(参考)

時点	段階	取り組み等	
2 年～ 3 年後	対象家屋の整備期間	PT	- 整備期間中の管理と各種許認可関係確認。 - スタッフ募集と各種 PR 策の完成・配布（PR 誌は分かりやすく誤解を招かないものに）
		商業者	- 工務店は実際の工事。 - 運営者は運営計画の見直しと各種申請。
		行政	予算の申請と担当グループへの移管及び役所内や他の関連団体との連携体制を構築する。

時点	段階	取り組み等	
3 年～ 4 年後	試験的運用開始	PT	・ 専門運営者以外にもボランティアを募り、安全確保と守秘義務を最優先としながら、出来るだけ永くかつ安価な運営ができる体制を模索する。
		商業者	・ 商売として成り立つことは難しいので、PT を中心として市民が運営を主に行う中、専門家としてのアドバイスと手助けを行う。
		行政	・ 引き続き誘致と他団体との連携を受け持つ。
4 年～ 5 年後	本格運営開始	PT	・ 発生する費用の予算付け。 ・ 各パートの責任者決定と配置。 ・ 長期運営するための他団体との契約や相互理解の上での人員提携等。 ・ 各種トラブルに対するマニュアル策定。 ・ 行政窓口との定期連絡協議会設置。 ・ 利用者の意見をお聞きする「目安チーム」を設置し（場合によっては外部専門家）、トラブルや事故を未然に防げる体制を構築。 ・ 第 2 の施設を模索 → モデルケースとなり他市他県からも視察に来るようなことになればうれしい！ ・ 「施設（場所）さえ見つければ運営はやります」という団体はあるので、当初から関係団体への声掛け・相談は欠かさないこと。 ・ あくまでも市民の取り組みなので、 ① 予算を安価に抑えること ② 一部のスタッフに負担が集中しないこと ③ 長く続くこと ④ 永続的に行政からの支援が得られること ⑤ 興味を持っていただく方が右肩上がりに増えること（←ここが肝要；子育て世代にとって魅力ある都市にすることが最大の目的のため、そのプロセスとして） ⑥ この取り組みが拡大増加すること ⑦ 関係者全員が Win Win の関係となり、他の課題にも派生できる取り組みとなること 等々

(プロアクションカフェにおける発表)

- 大阪狭山市が子育てに最適な環境であり、ランキング上位に入る都市になることをめざしたい。市民の関心が高まり、胸を張ってPRできる都市になればよい。
- 空き家対策とのコラボレーションを考えている。ただ、空き家の活用は金銭面、安全面、法的問題があり、簡単ではない。そのため、空き家の活用は必須でなく、代替できる施設があればそれでよい。
- 子育て環境をよくする取組みは行政でも行われており、既存団体も多い。ただ、ハードルを低くしたいという思いがあり、申込や会員登録、会費がなく、いつ来て、いつ帰ってもよいものができればよい。また、この番号にかければ10分以内に駆けつける、といった緊急対応ができるとよい。
- ハードルを低くすることと、セキュリティの問題は相反するものである。そこは専門家の意見を聞きながら、行政の協力もいただいて、進めていきたい。
- 他の提案ともコラボレーションできる。「提案2：狭山駅前を若い力で活性化！」では、子育てをしている方を連れていくことができる。「提案3：陶器山を経由する新たな回遊ルートの設定」では、イベントとして陶器山に行くことができる。「提案4：歩いて楽しいみんなの花道づくり」では、一緒に取り組む。
- 市民会議が終わって雲散霧消にならないことが一番大事である。その後にきちんとつなげることが重要である。
- 行政の方が貴重な意見を持っており、積極的にアドバイスをいただいた。行政と市民はチームだと思っている。取組みを進める中で、法的に難しい問題や、民事不介入の問題も想定されるので、そこを誰が受け持つかを考え、チームとして取り組んでいきたい。

提案 2	狭山駅前を若い力で活性化！ ～ 学生と市民が協働してにぎわいの駅前に ～			
計画 目標	○ 狭山駅前が各種店舗の並ぶ活気あふれた街並みになっている。 ○ 若い世代の居住が進み、高齢化率も低下している。 ○ いろいろな試みで、一時的な賑わいとならないような事業展開が行なわれている。			
概況	・ 狭山駅は無人駅で駅前は店舗も少ない。 ・ 車両は通過車両のみ。 ・ スーパーなどの生活必需品購入店舗がない。 ・ その他の業種の店舗も入れ替わりが激しい。			
時点	節目目標 (マイルストーン)	取り組み		備考
1 年後	「狭山駅前にぎわい 運営委員会」が立ち 上がっている。	自分たち	・ 運営委員候補の方への声掛けを行う。	
		地域	・ 運営委員候補者を選出する。	
		行政	・ 地域への協力要請をする。 ・ 場所の提供。 ・ 大学との連携依頼。	
		学生	・ 地域住民とのディスカッションを行う。 ・ にぎわいを生み出す手法を創造する。	
3 年後	駅前地区の整備が始 まっている。	自分たち	・ 学生と一緒ににぎわいを生み出す方法を考える	
		地域	・ 整備計画によって権利関係がある場合は協力を依頼する。	
		行政	・ 整備計画のタイムテーブルを作成する。 ・ 地域への説明、関係省庁との連携。	
		学生	・ 地域住民とのディスカッションを行う。 ・ にぎわいを生み出す手法を創造する。	
5 年後	駅前が活性化し、毎 日何か催され、人で あふれている。	自分たち	・ にぎわいが一過性にならにように継続性を持たせる活動を行う。	
		地域	・ 新しく居住した住民を巻き込み、事業の継続性を確保する。	
		行政	・ 住民と協働し、催しがスムーズに開催されるようにサポートする。	

(プロアクションカフェにおける発表)

- まずはソフト面から始めることになった。ソフト面から初めて、機運が高まっていき、この場所では難しいとなった時、ハード面が関わってくる。
- にぎわいのスペース確保が必要であり、駅前ロータリーや駅の奥にある廃屋が問題という意見が出た。これは、50年から100年単位の話となる。
- 狭山駅周辺の3地区について、自治会に参加される若い方は組長になれば会議には出るが、それ以上のことにはあまり介入してくれないという話があった。そこで、「よそ者、若者、ばか者」が地域を盛り上げるということで、学生に地域をかき混ぜる役割を担ってもらえば、活性化するのではないかという意見が出た。
- 大学との連携を具体的に考えた時、地区に住む学生では「よそ者」から外れてしまうので、最近協定を結んだ帝塚山学院大学を含めたいと考えている。
- 駅前通りに学生による屋台バーや朝市を開いて、地域の方が手作りしたものを販売してはどうかという意見も出た。それを可能にするためには、道路関係の問題もあり、難しいのではという意見が出た。ならば、歩行者天国にしてはどうかということで、年1回、半年1回、月1回としていけば、なんとか可能ではないかという結論になった。
- 狭山駅周辺の歴史のPRをするとよい。かつては南海の終着駅だった、富士車両があった、これらの要素が観光に役立つのではないか。関係人口、鉄道が好きな人にも来てもらえる。
- 駅前でクリスマスツリーのイルミネーションをして、スタートアップとして活用する意見も出た。
- 有名な店舗、行列ができる店舗を1つ誘致すれば、人が集まるのではないかという意見もあったが、それでは地域の方たちで地域全体を盛り上げることからは外れてしまう。
- 地域間で温度差がある。旧地区が2つに新地区の3つである。旧地区2つだけでも温度差があるのに、そこに新しい地区があってまとめるのが大変である。まずは個々で盛り上げていき、盛り上がった後、3つをまとめると話が進みやすい。
- 市民会議が終わった後から可能なことは、朝市や屋台バーである。行政の方の力を借りれば可能であるという道筋がわかったことはありがたい。

提案 3	陶器山を経由する新たな回遊ルートの設定
------	---------------------

計画目標	○ 狭山池を起点に、陶器山から狭山ニュータウンをめぐり狭山池方面に戻ってくる回遊ルートが設定されている。 ・ 自然環境以外の楽しみも提示すること、狭山ニュータウンへの関心を持ってもらうことが考慮されている。
------	--

概況	・ 狭山池と並ぶ自然環境豊かな場所として陶器山があるが、陶器山のみをウォーキングや散策の目的地として利用している。 ・ 陶器山から別の方向に行くルートが地元の人しかわからないため、陶器山を経由してどこかに行くという面的な広がりがない。 ・ 休憩したり食事をしたりする場所がわからない、 どのように帰ればいいのかわからない（最寄りの交通機関）
----	---

時点	節目目標 (マイルストーン)	取り組み		備考
半年～ 1年後	現状調査が済んでいる。	自分たち	・ 新たなルートの検討、下見をする。	
		地域	・ 食事や休憩する場所の調査をする。	
		地域	・ ルート周辺の埋もれた魅力の発掘をする。	
1年半後	ルートの設定がされて、マップが作成されている。	自分たち	・ 情報を取りまとめたうえでルートを設定する。	
		自分たち	・ マップを作成する。 ・ 市と調整の上、マップの印刷を行う。	
		自分たち	・ 市と共に P R 計画や標識設置計画を検討する。	
2年後	標識等の整備が済んで、ルートの P R が実施されている。	自分たち	・ 案内標識の設置について市と調整する。	
		地域	・ 市と共に P R を実施する。	

(プロアクションカフェにおける発表)

- ・ 狭山池を中心に、市民が行ってみたいというルートを作る。市内全域が理想だが、まずは陶器山を中心に議論を進めた。
- ・ 陶器山を歩くだけならば、歩くだけで終わりになる。その中でゆっくりできる場所、ご飯を食べる場所があるとよい。そこで、商工会で行っている「さやまバル」のノウハウの活用が考えられる。
- ・ また、大阪狭山市には歴史があるので、それを回遊ルートと重ねて地図を作れば、自分の好みに合ったルートで周遊していただけるのではないかな。
- ・ 陶器山に行くと、駐車場がほとんどない。その対策として、近くには遊休農地があるので、それを市が借り上げて駐車場にすれば、所有者も喜ぶという意見もあった。
- ・ 周遊する場合、たまり場を作り、近所の人が出てきてお茶を出してくれる、といった昔のお遍路さんのような雰囲気再現できるとよいという意見もあった。
- ・ ニュータウンの中だけでなく、西高野街道や三都神社をPRし、夏ならば大野ぶどう、春ならば西山霊園の桜、梅雨時であれば蛍、これらもメニューとして挙げられる。
- ・ 陶器山自体も鳥の数が多いので、バードウォッチングに向いている。
- ・ 女性が一人で歩くには危険で、以前も事件があった。安全対策の必要がある。
- ・ 予算について、地図を作るのはともかく、桜の植え替え、案内板作成にお金がかかる。また、アンダーパスも計画の中に入っていると思うが、これにもお金がかかる。これらを踏まえて、進める必要がある
- ・ 駐車場の代わりに、100 円バスの活用も考えられる。例えば、周遊パスを市役所で販売し、200 円から 500 円でどこまでも、何回でも乗っていいという使い方をしてはどうか。

提案 4	歩いて楽しいみんなの花道づくり			
計画 目標	歩道に花と緑があり、楽しい道歩きができるまちになっている			
概況	・ 歩道は確保されているが殺風景な部分が多い、潤いがない。 ・ 歩道の美化に関して地域の人は無関心。雑草が茂っているところが多い。 ・ 歩道の凸凹が目立つ（街路樹の根が盛り上がっている）			
時点	節目目標 (マイルストーン)	取り組み		備考
半年後	地域の人たちが取り組みの趣旨を理解してくれている。	自分たち	・ 各自治会へ出向き趣旨を訴える。 ・ 歩道沿いの家に呼び掛ける。 ・ まちきれい隊プログラムの活用。	
		自分たち	・ 花の苗の購入資金を募金にて調達。 ・ 街路樹に掲げる俳句・川柳を募集。	
		地域	・ 自治会等で取り組み検討を依頼。 ・ 南中円卓会議の協力を得る。 ・ 小学校の庭で花を育ててもらようよう依頼する。	
		行政	・ 街路樹の根が盛り上がってことを調査。	
1 年後	幹線道路沿いの歩道に花が植わっている。 遊歩道として歩く人が増えている。	自分たち	・ 花の苗を購入して植える。 ・ 場所によりプランター設置。 ・ 街路樹に俳句・川柳を掲げる。	
		自分たち	・ 2 か月に 1 回程度の経過報告会を開催する。	
		地域	・ 小学生と一緒に花を植える。 ・ 自治会及び南中円卓会議と協力して花を植える。 ・ 花壇の手入れをお願いする。	
		地域	・ 地域と連携して 3 か月毎に経過報告会を開催する。	
		行政	・ 幹線道路沿いの歩道を整備する。	
5 年後	外周道路沿いの歩道に花が植わっている。 遊歩道として歩く人が 1.5 倍に増えている。	自分たち	・ 花の苗を購入して植える ・ 花を種から育てる。	
		地域	・ 小学生と一緒に花を植える。	
		企業	・ 自治会及び南中円卓会議と協力して花を植える。 ・ 一休みベンチを設置する。	
		行政	・ 花壇の手入れをお願いする。 ・ 花を種から育てる畑を借りる。	
		行政	・ 外周道路沿いの歩道を整備する。	

(プロアクションカフェにおける発表)

- 明日からできることは、みんなで道路を歩いてみることである。
- あるいは、自宅で花を植えてみる。花を植えて、花に愛着を持ってもらい、それから道路に花を植えていけば、花を植えている方の協力も得られるのではないか。
- 花は小学校か、障がい者作業所で種から育ててもらおう。小学生に種から育ててもらった場合、その花を花道に植えてもらい、〇〇小学校の生徒が植えた花だと示せば、その花を非常に大事にしていただける。犬の散歩でも、その花には糞尿をさせないことにもつながっていくという意見が出た。
- 募金箱を市内店舗に置いていただく。また、市内企業については、花の募金以外に、周回道路のベンチ設置への寄付もお願いできるとよい。
- 地域の方の協力は必要だが、それ以外にもボランティア募集をする。ニュータウンの花と緑のまちづくりのためにボランティアを募集しているとPRし、ボランティアにつなげていけるとよい。
- 小学生、中学生には花を植えてもらい、高校生、大学生にはSNSで花を植えよう、道路を綺麗にしようと情報発信をお願いする。
- 手入れのしやすい花の使用を考えている、今の季節ならばスイセンである。
- また、スイセンだけのスイセン通り、チェリーセージだけのチェリーセージ通りなど、1つの通りにバラバラに植えるのではなく、一種類だけの通りをいくつか作るとよい。
- 予算について、募金で集まればよいが、それ以前に我々でできることとして、市の「市民等からの協働事業提案」に応募し、補助金を受け取る。それで種や花、プランターを購入する。また、土はまちきれい隊にお願いする。

提案 5	子どもから大人までがほっこりできる空間づくり ～ 移動型プレーパーク ～
------	--

計画 目標	○ 定期的に地域の公園でプレーパークを開催し、子どもから高齢者まで人が集まる機会が広がっている。 ○ 子どもたちと地域の人が、顔の見える関係になることで、子どもたちに伝えたい（自転車のルールやゴミなどのマナー等）を伝える関係が地域の中にできている。
----------	---

概況	・ 遊ばれていない公園がたくさんある。 ・ 地区で事業(イベント)をしても親子、子どもの参加が少ない。 ・ おまつりの時くらいしか、人が集まるきっかけがない。 ・ ゴミが放置されるなど、まちの中のマナーも悪くなってきている。
----	---

時点	節目目標 (マイルストーン)	取り組み		備考
1 年後	現状が把握できている。	わたし	・ プレーパークを多くの人へ説明する。	・ プレーパークが子どもだけの取り組みではなく、誰にとっても集うことができる場であることを伝える。 ・ まずは、現状把握も行いながら、じっくり、企てる側も楽しめること(うれしいこと)を考える。
	実現に向けて、地域で企てチームができている。	自分たち	・ 地域の中の公園の現状を知る(調査を行う) ・ 公園等の整備を手伝う。	
	公園清掃で地域とつながり始めている。	自分たち	・ どんな場にしたいかを考える地域の中に企てグループをつくる。	
		地域	・ まずはプレーパークを知る。 ・ 公園を再認識する。	
3 年後	実際にやってみる機会(定期的に)・できる場所(公園等)が増えている。	自分たち	・ プレーパークを(定期的に)ひらく	・ もう一つ大切に思うことは、参加者をお客様にしてしまわない工夫。
		自分たち	・ カタチになってきた自分たち流のプレーパークを知ってもら(広報)	
	公園が憩いの場所になっている。	地域	・ 自分たちという集まりから地域のこととしての活動へ。	
		地域	・ 公園、空き地等の有効利用を考える。	
5 年後	コンテナ車利用など、新しいプレーパークのチャレンジができている。	自分たち	・ 継続しやすいプレーパークの運営を見直す	・ ドイツではコンテナ車でいろんな場所に移動しながらプレーパークを開いているようなので、そのような体制ができると活動の幅が広がる。
		地域	・ プレーパークだけでなく、人が集える新たな方法を企てる。	
		出資者	・ コンテナ車等の提供	

(プロアクションカフェの参加者からの意見)

- なによりも世代間交流の場である。孫を連れて行ってみたい
- 子どもと高齢者のふれあいづくりはすばらしい。
- 核家族化が進み、近隣世帯との交流も減る中で、多世代交流のひとつの策として有効だと思う。
- 新しい公園の使い方としては面白い。ボランティアの一環としても興味深い。
- 見守りボランティアならできる。
- 公園の整備を十分に行う。草や遊んでいないところ。
- 公園も含め、街全体でゴミ拾いイベントを企画する。
- プレーパークと公園清掃を切り離さず、一体として行くと、プレーパーク自体も定期的に行えるかもしれない。
- 公園の状態等を行政と情報共有することでいろいろな連携が期待できる。
- 空気で膨らます遊具を設置するとよい。
- 日と場所をローテーション的に決めて、移動型遊具等も含めた楽しい店、美味しい店を出店する。
- 移動型で行うよりも、核となる公園を作るべきではないか。最初は良いが、回数を重ねると重くなってくるのでは。
- 子どもの数が少ない地域では、他との連携が難しいのでは。
- 移動型となると、安全面はどうなるのか。子どもに貸防具など。
- 取組みの中の「公園を再認識する」という活動をどのように広げていくのか。地域の既存団体や学校等、周辺の実態を把握することが大切である。
- 費用がたくさんかかると思うので、一口オーナーのような形で支援者を募る。